

感 覚 運 動 の 指 導

目 次

○ 指導計画作成の立場	3
○ 活動内容一覧表	5
○ 指 導 計 画	
・ 感覚入力段階	6
・ 粗大運動段階	15
・ 知覚・運動段階	27

1 指導計画作成の立場

(1) 基本的な考え方

精神発達遅滞児は、一般に、運動・認知・思考・言語といった機能に遅滞がみられ、精神発達が未分化な状態にあるといわれている。また、子供たちの様子をみてみると、身体の形態上問題はないのに、両手・両足を一緒に使ったり、動作を模倣したりできない、耳が聞こえるようなのに、名前を呼んでも返事をしないなどといった問題があり、その結果日常生活で様々な支障をきたすことが多い。このような原因として、外界の情報を受け入れ、処理し行動として反応する感覚－中枢神経系－運動（以下、感覚運動と略す）といった一連の過程がうまく機能を果たしていないことが考えられる。

この一連の過程には、環境からの情報を適切に受け入れる（入力）、その受け入れた情報を基に動きを意図し指示する（情報処理）、それらを身体各部位に伝達する（出力）、動きがフィードバックし動きの意図や努力に修正をもたらす（入力）といった働きがある。どの働きでも、その一つが十分に機能していないと環境からの情報をうまく受け入れ、処理できず、適切な行動をとることができなくなる。このように考えてくると、前述した問題は、自分の身体に関する情報がうまく処理されなかったり、人が自分の名前を呼んでいるという情報を周囲の声や音から区別して受け止めることができなかったりするためだと言える。

ところで、感覚運動における発達は次のように考えられている。①触覚、前庭覚、固有覚という感覚を入力する段階。②それらの感覚を基に、身体知覚、運動企画が発達し、全身を使って運動する粗大運動段階。③粗大運動の段階から、手足の操作が発達し知覚によって環境からの情報を受け入れ、手・足によってその情報を確認する知覚・運動段階。そして、感覚運動の過程に何らかの問題があると、①→②→③の発達が滞ることになる。

以上のようなことから、感覚運動の一連の過程に問題がある子供たちに対して、その発達を促すような活動ができるような環境を設定して、適切な感覚運動の結びつきができるようにし、前述した①→②→③の発達を導く指導が必要になってくる。このような指導を通して環境からの情報を適切にとらえることができるようになるとともに、それをもとに行動したり、行動を修正したりして、自ら環境に働きかけることができるようになる。このことを自我と関連させて考えると、情報を適切にとらえようとする中で、子供たちは、自己を外界とは異なるものとして受けとめ、自分自身に気付き、自己を外界から分化させることができるようになり、行動し行動を修正することで、環境に積極的に働きかけたり、自己を調整したりするようになる。つまり、感覚運動の発達を促すことで、自我の発達を促すことができる考える。

感覚運動の発達を前述したような①→②→③の過程としてとらえると、あらゆる活動に関連すると考えられるが、感覚運動の発達を促すための特別な環境を設定する必要がある、活動を様々な指導形態のなかで別々に指導したのでは十分な効果が上げられないことから、系統的、

集中的に行うために、小学部で領域・教科を合わせた指導として位置付け、それぞれの段階ごとに集団で行うことにした。中・高等部においては、小学部段階で感覚入力 of 正常化が図られ、身体及び手指の操作性が徐々に発達してきていることから、感覚運動の指導は行わないが、小学部で行っている経緯を考慮し、感覚・知覚や運動などにおいて特に指導が必要になる子供に対して、養護・訓練の環境の認知や運動・動作の内容に関連させて、個別に指導するものとする。

(2) 目 標

- はけやブラシなどを使って身体各部位をこすったり、スクーターボードやチューブブランコを使ったりする活動などを通して、触覚、前庭覚、固有覚などの感覚入力の正常化を図る。
- 滑る、くぐる、渡る、模倣して身体を動かすなどの活動を通して、身体知覚、運動企画などの能力を高め、粗大運動の発達を促る。
- ビーズ通しやシールはり遊び、積み木並べ遊びなどの活動を通して、目と手の協応、形の認知・弁別、形の恒常性の認知、図一地の弁別、全体一部分の関係、空間関係・位置の知覚などの能力を高め、巧緻性や視知覚の発達を促す。

(3) 指導計画作成上の配慮事項

- ① 指導内容・方法は、子供たちの実態に合わせて、先の指導計画を修正したり、新しい活動を付け加えたりし、子供たちが楽しく活動できるように配慮して作成した。
- ② 感覚入力段階、粗大運動段階、知覚・運動段階の三つの段階に区分し、さらに感覚入力の段階を、触覚・固有覚を中心とした活動と前庭覚・固有覚を中心とした活動に分け、粗大運動の段階を、身体知覚を中心とした活動と運動企画を中心とした活動に分け、知覚運動の段階を、目と手の協応、図形と素地、知覚の恒常性、空間における位置と空間関係の領域に分け、指導計画を作成した。
- ③ 授業時数は、20分を1単位時間とし、週4回4単位時間として年間35週で配当する。


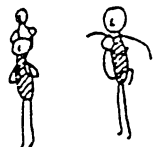
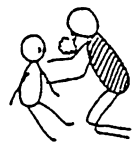


2 活用上の留意点

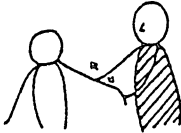
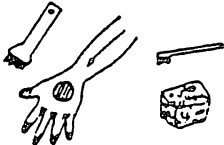

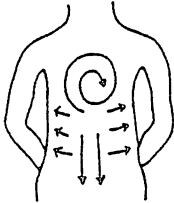

- (1) 活動は、子供一人一人の実態に応じて、指導計画の中から選ぶ。その際、活動時間、量、教材・教具の与え方、配置などに配慮する。
- (2) 活動は、子供の自発性を重んじて展開するが、経験していない活動や抵抗を示す活動も楽しく取り組むことができるように、教師は子供の活動を援助したり、共に活動したりする。

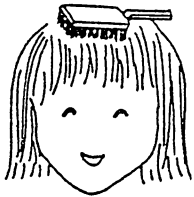
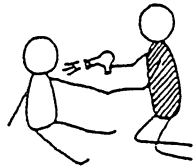
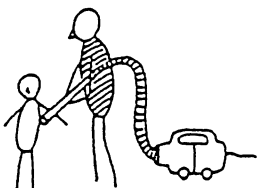
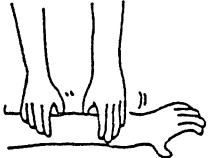

活 動 内 容 一 覧 表

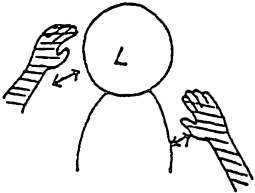

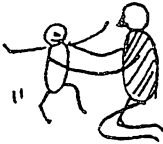
段階	領 域	活 動	関 連 内 容
感覚入力段階	触覚・固有覚 入 力 (P 6)	①スキンシップ ②息の吹き掛け ③なでる・こする活動 ④ドライヤー ⑤掃除機 ⑥圧迫する活動 ⑦たたく・つまむ活動 ⑧くすぐる活動 ⑨その他	生・遊1-1, 8 音1-1, 2 道2-(3), 4-(2)
	前庭覚・固有覚 入 力 (P 10)	①スクーターボード ②チューブトンネル ③チューブブランコ ④トランポリン ⑤ローリングシーソー ⑥身体を揺する, 回してもらう活動	生・遊1-1, 6, 8 音1-1, 2 体1-6 道2-(3), 4-(2)
粗大運動段階	身体知覚 (P 15)	①筋肉の緊張・弛緩 ②いろいろな姿勢 ③模倣歩き ④手や足を動かす活動 ⑤身体各部位を動かしたり, 探したりする活動	生・遊1-2 音1-6~9 体1-4, 5, 2-5, 6 道2-(3), 4-(2)
	運動企画 (P 19)	<平衡性>①平均台 ②ジャンピング台 ③バランスボウル ④トランポリン <協応性> ①スクーターボード ②滑り台 ③ジャングルジム ④トンネル ⑤ミニハードル ⑥タイヤ ⑦ロープ ⑧はしご	生・遊1-6, 2-12 体2-7~8 道2-(3), 4-(2)
知覚・運動段階	目と手の協応 (P 27)	①手, 指遊び ②ボルト・ナット通し ③指なぞり ④輪郭なぞりと色塗り ⑤ビーズ通し ⑥はさみで切る活動 ⑦紙をはる活動	国2-15~16 音1-7 図1-14, 2-7 道2-(3), 4-(2)
	図形と素地 (P 31)	①弁別活動 ②分類活動	算2-1, 2 道2-(3), 4-(2)
	知覚の恒常性 (P 33)	① 3次元の事物を2次元の平面に置き換える活動 ② 大きさ・形・色による分類 ③ 図形や立体を扱う活動	算1-6, 2-1, 2 1-9, 2-11 道2-(3), 4-(2)
	空間における位置関係 (P 34)	①身体と事物の位置関係 ②身体・左右の識別 ③自分の左右にある事物の識別 ④事物相互の位置関係 ⑤図形の回転, 並びかえ ⑥積木並べ ⑦積木相互の位置関係 ⑧玉さし盤 ⑨積木での模様作り	算2-12 道2-(3), 4-(2)

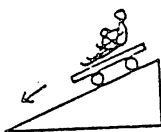
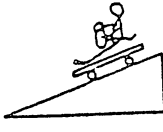
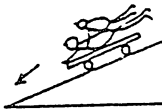
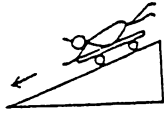
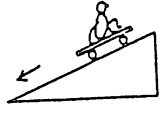
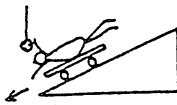
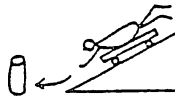
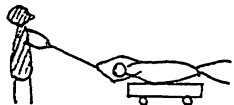
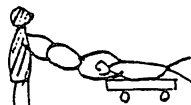
感覚入力段階



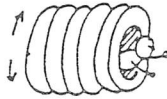
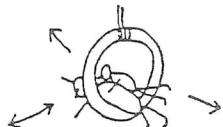
段 階	感 覚 入 力	領 域	触覚, 固有覚を中心とした活動
目 標	○ やさしく抱きしめたり, はけ, ブラシ, スポンジ等で身体の各部位を刺激したりする活動を通して触覚系の正常化を促す。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備 等
<p>1 だっこ・おんぶ・肩車などをしてもらう。</p>  		<ul style="list-style-type: none"> ・ だっこ・おんぶ・肩車などのスキンシップは, 幼児期において欠くことができないもので, 多量の前庭刺激や触刺激などを含んでいると言われている。 ・ 情緒の安定や教師とのコミュニケーションの向上に役立つので, だっこなどをしてから, 次の活動へ移るとよい。 ・ はけ, ブラシなどによる手, 腕, 顔, 背中などへの刺激に対して不快感を持ったり, 嫌がったりする場合は過反応とし, 逆に皮膚への刺激を要求し続ける場合は, 低反応とする。 ・ 刺激の与え方は, 一人一人異なるので十分注意するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストロー ・ 毛布 ・ タオルのシート
<p>2 顔, 耳, 手足などに息を吹きかけてもらう。</p> 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 触刺激を与える際には, 子供に用具材料・与え方などを選ばせてもよい。このことは, 子供が楽しい・快いという触刺激が, 中枢神経の組織化に役立っていると考えられているからである。 ・ 息を吹きかける際は, 見える部位から, 次第に見えない部位へと移っていく。また, ストローで一か所に集中して吹きかけ, 気付きやすいようにする。 ・ 過反応の子供は, 初めは毛布やシートの上で活動させ, 身体全体から刺激が入るようにする。 	
<p>3 腕や手に口を当てて音をたてながら吹いてもらったり, 吸ってもらったりする。</p> 			
<p>4 毛布やタオルのシートの上で寝たり, 身体をくるんだりする。</p> 			

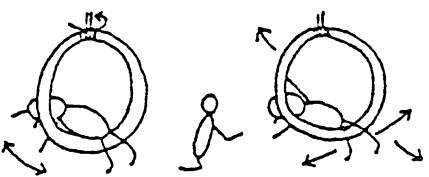
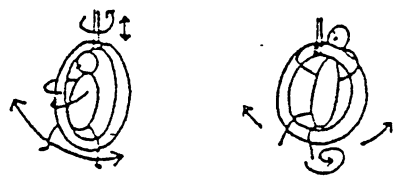
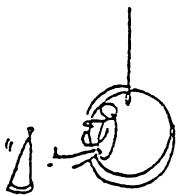

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>5 いろいろなもので身体を触ったり、こすったりしてもらう。</p> <p>(1) 手のひらで、身体をなでたりこすったりしてもらう。</p>  <p>(2) はけ、ブラシ、スポンジ、タオル、ビロード布などで身体の各部位をなでたり、こすったりしてもらう。</p>    	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラッシングは、手の甲、腕などから始め、子供が受け入れられるようなら、背部、腹部、首、顔へと刺激を広げるようにする。 ・ はけ、タオルなどの用具は、硬いものや柔らかいものなどを準備し、いろいろな刺激を与えられるようにする。 ・ 過反応の子供には、自分の手や自分で選んだもの（羽毛はけなど）で刺激するようにし、受け入れやすくする。 ・ 低反応の子供には、硬めのはけ、スポンジ、ブラシなどを使うようにし、刺激されていることが分かるような強い刺激から始める。 ・ 過反応の子供には、体毛に逆らったり、正中線を越えるようなブラッシングはしないようにする。 ・ 軽く、速くこする触刺激は、網様体賦活系に対して高い興奮性を持つためてんかん発作を起こしやすい状態を作り出す。子供の障害に応じて、刺激の与え方を考慮する。 ・ 刺激を怖がる子供には、他の子供が刺激を受けて楽しんでいるのを見せたり、刺激されている部分を見せたりして、刺激への恐れを減らすようにする。 ・ 刺激を与えているとき、どこを触れているのかしっかり見せ、自分の身体の部位を意識させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はけ ・ ブラシ ・ スポンジ ・ 羽毛はけ ・ ビロード布 ・ なめし革 ・ タオル ・ おふろアカスリ ・ フェイスブラシ

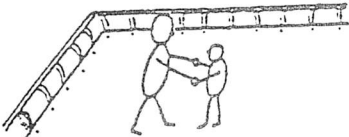
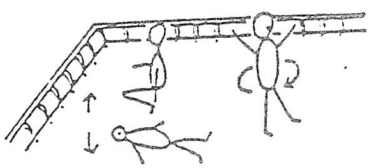

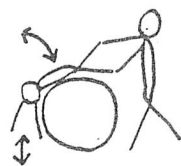
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 髪は最も抵抗の大きい箇所なので、無理に行うのは避けるようにする。また、教師がしてあげるだけでなく、子供にブラシを持たせて自分でもさせてみる。 	
<p>6 手や足などにドライヤーをあててもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライヤーを使用する際は、一か所に長い間当てたり、送風口をなめたりしないように十分注意する。 ・ 快・不快を子供の表情で確かめながら、ドライヤーの強さと当てる身体の部位を変化させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライヤー
<p>7 吸入器や掃除機などで吸い取る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温風や冷風を交互にあて、温かい、冷たいなどの温度を感じ取る感覚を刺激するようにする。 ・ 掃除機は刺激が強いので、過反応の子供や嫌がる子供には、無理やりさせないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吸入器 ・ 掃除機
<p>8 身体のおちこちをもんでもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 押す刺激は、こする刺激とは逆に興奮を抑える働きがあると言われているので、触覚とははっきり区別して、刺激を与えるようにする。 	
<p>9 ぎゅっと抱きしめてもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体をもむときは、手や足など受け入れやすいところから始め、慣れてきたら他の部位をする。 	
<p>10 腹臥位や背臥位になり、マットをのせ圧迫してもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過反応の子供でも、そっと抱かれる（触覚）のは嫌がっても、ぎゅっと抱きしめられる（圧覚）のは喜ぶことがあるので、刺激を与えて子供の反応を見るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールマット ・ マット
<p>11 おしくらまんじゅうをする。</p>		

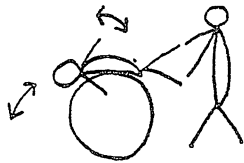
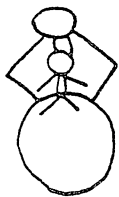


主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>12 手のひらで身体のあちこちをタッピングしてもらう。</p>  <p>13 手、足、背中をつまんだり、はじいたりしてもらう。</p>  <p>14 くすぐってもらう（強く、弱く）。</p>  <p>15 「一本橋こちょこちょ」をする。</p> <p>16 その他</p> <p>(1) はだしで床や草の上を歩いたり、はったりする。</p> <p>(2) ボールやスポンジの入った箱の中に入る。</p> <p>(3) セロハンテープをはり、自分ではがす。</p> <p>(4) 脚やお尻などをピコピコトンカチでたたく。</p> <p>(5) 熱い（冷たい）おしぼりで顔や手をふく。</p> <p>(6) ビニール袋の中に氷を入れて、顔や手に当てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痛覚刺激を与えるときは、子供が嫌がるのを無理やりたいたたり、子供を傷つけたりすることがないようにする。 ・ 過反応の子供や他人に対しておそれのある子供には、この活動はしないようにする。 ・ 低反応の子供や自傷行為のある子供は、強い刺激を要求してくるが、痛覚刺激だけでなく、多くの種類の皮膚感覚刺激を与えるようにする。 ・ わきの下、あごの下、わき腹、足の裏などの中から、適当な場所を選んでくすぐるようにする。 ・ くすぐるときには、子供にはっきり分かるように、これからくすぐるぞという態度をとったり、「コチョココチヨ」などと言葉掛けをしったりしながらする。 ・ はだしで足底をしっかり床などに付け、足からの触刺激を得られるようにする。 ・ 怖がる子供には、最初は手を入れてかき混ぜたり、握ったりすることから始め、徐々に足、身体全体を入れるようにする。 ・ 「一本橋こちょこちょ」などの遊び歌を歌いながら、たたく・つまむ・つねる・くすぐるなどの活動を行うようにする。 ・ その他の活動として、こする・吹きかける・吸い取る・粘り付くなど、素材の組み合わせによって、いろいろ工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボール ・ スポンジ ・ セロハンテープ ・ ピコピコトンカチ ・ おしぼり ・ 氷 ・ ビニール袋

段 階	感 覚 入 力	領 域	前庭覚, 固有覚入力を中心とした活動
目 標	○ スクーターボードで坂を滑ったり, チューブブランコに乗って揺らしてもらったり, トランポリンで跳んだり, ローリングシーソーに乗って回転させてもらったりする活動を通して前庭系の正常化を促す。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備 等
<p>1 腹臥位, 背臥位, 座位などでスクーターボードに乗って滑る。</p> <p>(1) 抱いてもらったり, 背に乗せてもらったりして坂を滑る。</p>    <p>(2) 腹臥位, 背臥位などになって, 頭や足を先にして坂を滑る。</p>   <p>(3) ボールや目標物に向かって, 坂を滑る。</p>   <p>(4) ひもで引っ張ってもらったり, フープを持って引っ張ってもらったりして床を滑る。</p>  		<ul style="list-style-type: none"> ・ スクーターボードの大きさは, 子供の頭や胸の上部, 足が端より出て, しかも身体の中央部を支えることができるのが適当である。 ・ 子供たちが怖がらずに楽しんで活動できるように, スクーターボードにキャラクターの絵をかいいたり, 形を工夫したりする。 ・ 活動中に顔色が悪くなる, 異常に発汗する, 吐き気を訴えるなどの様子が見られたときは中止する。 ・ 一人で坂を滑るのを怖がる子供は, 教師と一緒に滑ったり, 坂の傾斜を緩やかにしたりする。 ・ いくらでも刺激を求める子供には, 滑る速度を上げてやったり, 傾斜を急にしたりする。 ・ スクーターボードに乗ったときは, 気持ちが良いように, 布で覆うとよい。 ・ 集団で行う場合, スクーターボードで滑る付近に他の子供を近づけないようにする。 ・ スクーターボードで坂を滑るのに慣れたら, 天井からボールをつるして, それを打たせたり, トンネルを通り抜けさせたり, 台上のボールをつかませたりする。 ・ スクーターボードに腹臥位で乗ったとき, 手, 足を伸ばすように, 言葉掛けをする。 ・ 腹臥位伸展姿勢を取れるかを見る。 ・ スクーターボードの活動は, 緊張性迷路反射の統合に役立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクーターボード ・ スロープ ・ ボール ・ トンネル ・ フープ

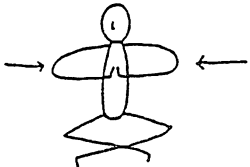
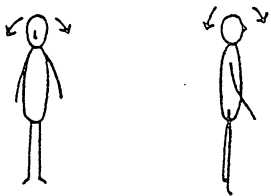
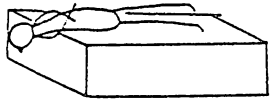
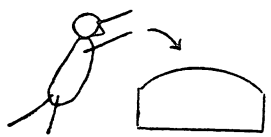
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>2 チューブトンネルに腹臥位や背臥位で乗り、ゆっくり動かしてもらったり、中に入り転がしてもらったりする。</p> <p>(1) 腹臥位で乗り、手や足を持って前後に揺らしてもらう。</p>  <p>(2) 背臥位で乗り、足を持って前後に揺らしてもらう。</p>  <p>(3) 中に入り、転がしてもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めは手の方を持ち、少し足が床から離れたらすぐ戻るような感じで、静かに不安感を与えないように揺らす。慣れたら、だんだん大きく揺らすようにする。 ・ 活動中に顔色が悪くなる、吐き気を訴えるなどの様子が見られたときは中止する。 ・ 足の方を持つときは、特に名前を呼んだり歌を歌ったりして、安心感を持たせるようにする。 ・ できるだけ力を抜いた姿勢で乗せるようにする。 ・ 慣れたら、手が向こう側の床に付くまで大きく揺らすようにする。 ・ 首の立ち直り反応にも有効である。 ・ 初めはチューブの中に腹ばい姿勢で寝かせ、左右にシーソーのように動かし、順次回転させるようにし、不安感を持たないようにする。 ・ 転がる動作に合う歌やリズムを付けながら楽しんで転がれるようにする。 ・ 慣れてきたら、緩やかな傾斜坂の上で転がすなどする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チューブトンネル
<p>3 チューブブランコに腹臥位や座位で乗って揺らす。</p> <p>(1) 背中に乗せてもらってチューブブランコに乗り、揺らしてもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慣れない子供は、揺れ木馬から始めるとよい。 ・ 安全面から下にマットを敷くようにするとよい。 ・ タイヤチューブの高さは、初めは揺らしても十分足が届く程度にして不安感を与えないようにし、慣れたらだんだん高さを上げてやる。 ・ 一人で乗ることを嫌がる子供は、教師の背中に乗るようにして揺らしてやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チューブブランコ





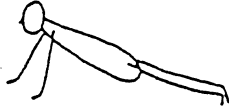







主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>(2) 一人でチューブブランコに乗り、揺らしてもらったり、回転させてもらったり、自分で揺らしたりする。</p>  <p>(3) 座位で乗り、揺らしてもらう。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めは一人でこげないので、少し揺らしてやる。 ・ 教師は、顔の見える方にいて、近くと手を伸ばしたり、言葉を掛けたりして、不安感を除くようにする。 ・ 集団で行う場合、付近に他の子供を近づけないようにする。 ・ 歌を歌い、気持ちのよいように揺らしてやる。 ・ 小さく揺らしたり、回転したり、大きく揺らしたりしてリズムをつける。 ・ 座位になる場合は、初めは子供の足が床につく高さで行い、床をけて乗ることで、揺れに慣れさせる。 ・ いくらでも刺激を求める子供には、大きく揺らしてやったり、チューブの高さを高くしたりする。 ・ 前方に大きなコーナーポールを立て足でけらせる、目的物に触る、手を伸ばす、取るなどといった活動を工夫し、楽しく活動できるようにする。 	<p>・ コーナーポール ・ ボール など</p>
<p>4 トランポリンで立位や座位で跳んだり寝ころんで揺すってもらったりする。</p> <p>(1) 教師と一緒に座位や背臥位になり、トランポリンで揺すってもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抱っこしてやり、リズムに合わせて子供を左右に傾けて揺すり、子供の手を上げさせたり、身体の向きを変えさせたりしてトランポリンに慣れさせる。 ・ トランポリンは、強い前庭刺激があるだけでなく、抗重力コントロール、バランスなどの向上に、たいへん役立つとされている。 	<p>・ トランポリン</p>


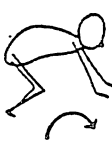
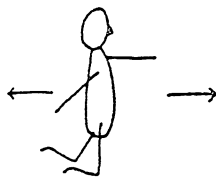




主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>(2) 教師と一緒に立位で歩いたり、跳んだりする。</p>  <p>(3) 一人で歩いたり、立位や座位や背臥位で跳んだりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初は子供の両手を取り、キャンバスから両足が離れないように上下にゆっくり揺らし、慣れさせる。 ・ リズムをとったり、歌を歌ったりしながら楽しく跳ばせる。 ・ 歩くときは、初め、支え棒につかまって歩かせ、不安を抱かせないようにする。 ・ 座位や背臥位のときは、教師がキャンバスを揺すってやる。 ・ 初めは、自由に上下に跳ばせ、慣れてきたら、高く跳んだり、前後左右の方向へ自由に跳んだり、跳びながら回ったりさせる。 	
<p>5 ローリングシーソーに乗り、自分で動かしたり、回転させてもらったりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ローリングシーソーに慣れさせるため、初めは一人で乗せ、自由に遊ばせる。 ・ 座位や背臥位で乗せ、左右に回転させると、強い前庭刺激が得られる。 ・ 強い刺激のため、乗っている子供の健康状態や様子などに注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ローリングシーソー
<p>6 腹臥位、背臥位、座位などでセラピーボールに乗って遊ぶ。</p> <p>(1) 腹臥位で乗って、両手が床に着くように前後に動かしてもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹臥位伸展姿勢や保護伸展反応を引き出せる。 ・ 前後左右に揺らしたり、急に動きを止めたりなどすることによって、多量の前庭覚刺激が与えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ セラピーボール

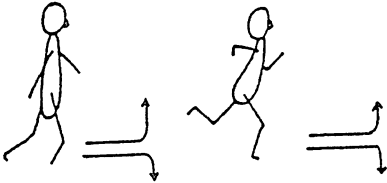
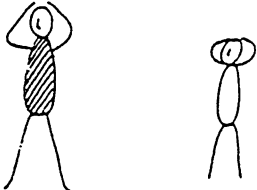

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>(2) 背臥位で乗って、前後、左右に揺すってもらう。</p>  <p>(3) 座位で乗り、前後、左右にゆっくり動かしてもらう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 不安定な姿勢に徐々に慣れることによって、重力不安の改善を促すことができる。 重力不安を示す子供には、足が床から離れる経験を十分にさせる。 座位姿勢が不安定な場合、指導者が腰を軽く支えるようにする。 手を使ったり、ボールの動きと反対の方向へ体を動かしたりして、バランスがとれれば、感覚をうまく統合していると言える。 	
<p>7 身体を揺すってもらったり、回転してもらったりする。</p> <p>(1) ひざの上で揺すってもらったり、抱いてもらったり、おんぶして揺すってもらったりする。</p>  <p>(2) 一人や二人の教師に手や足を持って揺すってもらったり、回してもらったりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> スキンシップは、幼児期において欠くことのできないものであるが、これは、多量の前庭刺激や触刺激、聴覚刺激を含んでいる。 子供が、心地よいリズムで揺すってやるようにする。 子供が怖がらないように配慮し、怖がる子供は、十分スキンシップなどをして、教師に慣れてから行う。 いくらでも刺激を求める子には、速度を上げてやったり、逆さづりに近い姿勢にしてやったり、両手両足を持って振り、マットの上に降ろしてやったりなど、子供が求めるだけの量を十分与える。 	<p>・マット</p>

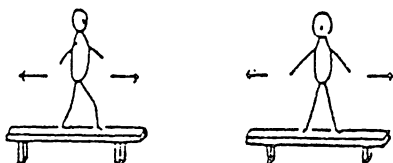

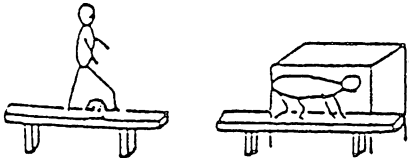
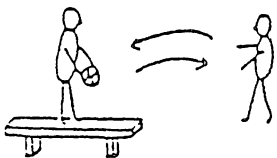
粗大運動段階

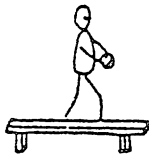
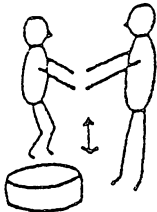
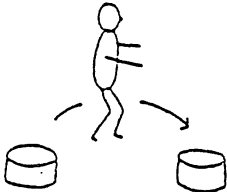
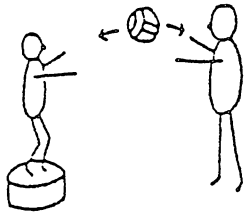
段階	粗大運動	領域	身体知覚を中心とした活動
目標	○ 筋の緊張や弛緩をしたり，いろいろな姿勢や動きなどを模倣したりすることを通して，身体知覚の形成を図る。		
主な学習活動・内容		留意点	準備等
<p>1. 身体各部位の筋肉を緊張させたり弛緩させたりする。</p> <p>(1) 手を合わせて力を入れたり，緩めたりする。</p>  <p>(2) 頭をできるだけ前後・左右に倒す。</p>  <p>(3) 台を使って体を反らしたり，起き上がったりする。</p>  <p>(4) 腹臥位，背臥位の姿勢をとる。</p> <p>(5) 力を抜いてマットに倒れる。</p> 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 押す活動では，風船やスポンジ等を両手で挟みつけるようにさせる。 ・ 腕の弛緩がうまくできない子供は，ゆっくりと背臥位の姿勢をとらせて，全身が弛緩できるようにする。 ・ 前後に頭を倒す際は，つま先や天井からつるしたボールを見させるようにし，可能な限り倒せるようにする。 ・ 立位での安定感がない子供は，教師が腰を押さえたり，座位姿勢をとらせたりする。 ・ 初めは，頭部から反らすようにさせ徐々に反らす部位を増やしていく。 ・ 教師は，脚部を押さえておき，反らさせるときに，1， 2， ……5と数えるようにする。 ・ 静かな音楽をかけて，緊張感をなくすようにし，開眼でも閉眼でも行う。 ・ エアーマットやベットなどを利用して，抵抗感を柔らげ，ゆっくり倒れさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風船 ・ スポンジ ・ ボール ・ ボール ・ いす ・ 台 ・ ベット ・ テーブルコーダー ・ エアーマット ・ ベット

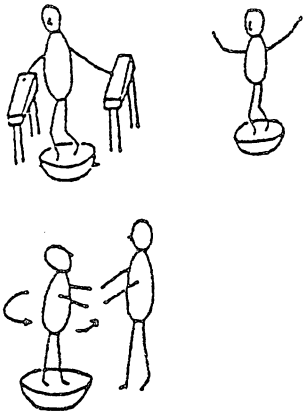


主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>2. いろいろな姿勢をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> しゃがみ姿勢 立てひざ   <ul style="list-style-type: none"> 四つばい 高ばい   <ul style="list-style-type: none"> 腕立て姿勢 飛行機   <ul style="list-style-type: none"> V字バランス 三点支持   <ul style="list-style-type: none"> ゆりかご かかし   <p>3 模倣歩きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> アヒル歩き ニワトリ歩き  	<ul style="list-style-type: none"> 立ったり、しゃがんだり、四つばいになったりする動きを模倣遊びの中に取り入れ、教師の姿勢と同じ姿勢をとらせることが遊びの約束であることを知らせる。 四つばいの状態で、非対象性緊張性頸反射、対称性緊張性頸反射がないか見る。 動きの少ない子供、あるいは動こうとしない子供には、手を取ったり、体を支えたりする。 動きの分からない子供には、教師が姿勢や動きの示範を示したり、言葉掛けをしたりしながら補助を行う。 子供に自分の姿勢がどうなっているか分からせたり、示範との違いに気付かせたりするために、鏡の前でいろいろな姿勢をとらせて、教師の姿勢と比べさせる。 マットやスポンジマットなどを準備し、安全面に注意する。 姿勢をとる回数は、いろいろな動きに慣れさせるように、また、動きが楽しくできるように配慮しながら個別的に設定する。 動きが分かるように、動きの大きさや速さに気を付けながら示範をし、模倣させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鏡(姿見) マット スポンジマット

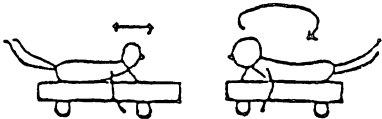
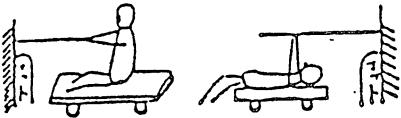
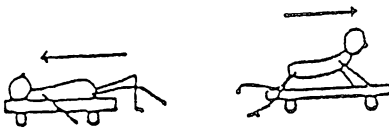
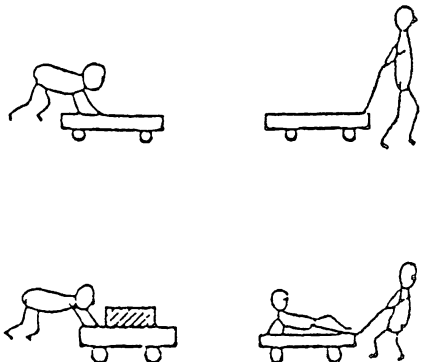
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>・ カニ歩き ・ ウサギとび</p>   <p>・ ひざ立ち歩き</p>  <p>4 左右の使いやすい手や足を動かす。</p> <p>(1) 手にこん棒や砂袋などを持って動かす。</p>  <p>(2) ボールを投げたり、打ったりする。</p>   <p>(3) 左、右の方向へ曲がる。</p> <p>○ その場で90度、あるいは180度回転する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 動物の泣き声や擬態語を言わせたり言葉掛けしたりして、動きに調子をとらせるようにする。 ひざ立ち歩きをさせる際は、マットを準備し安全に行わせる。 慣れてきたら、けんけんやスキップ、ギャロップなど、いろいろな走り方へと発展させていく。 ここでは、ラテラルリティの発達を促すために、利き手や利き足などを使った活動をするが、まだ利き手や利き足など定まらない子供には、使いやすい手や足を使わせるとよい。 動きは、肩の水平になる所までの上下の動きを基本として、「右」「左」の言葉と結び付けるようにする。 こん棒や砂袋などの重さを軽くしていくことで、意識的に手を動かせ、左右の区別を図る。 ボール投げは、両手を使うことから初め、次第に片手投げへと指導していく。 最初は、左右へぐるぐる回ることから行い、1回転で止まるようにする。 指示の分かりにくい子供には、左右方向への矢印や、90度と180度地点の足形を床にかいておくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マット ・ こん棒 ・ 砂袋 ・ ボール ・ バット

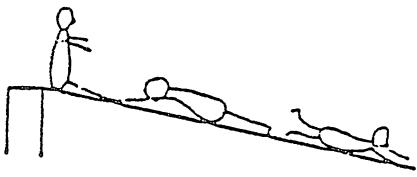
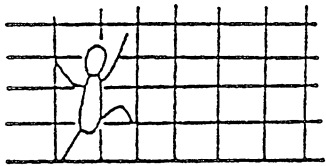
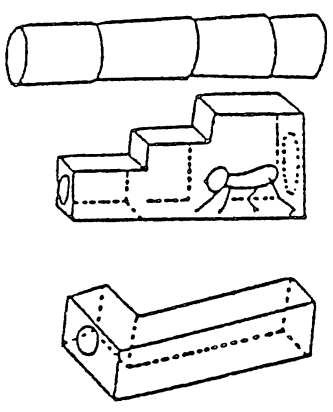
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>○ 歩いたり、走ったりしながら左右の方向へ曲がる。</p>  <p>5 身体各部位を動かしたり、捜したりする。</p> <p>(1) 教師と向かい合って模倣する。</p> <p>○ 頭、首、腰などの部位に手で触れたり、動かしたりする。</p>  <p>○ 顔の部分（目、耳、鼻など）に触れたり、部分をつまんだりする。</p>  <p>○ リズム楽器を用いて、動作模倣をする。</p> <p>(2) 教師の指示で身体を動かしたり、捜したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 触れた部位 ・ 言葉や絵カードで指示した部位 ・ トンネル ・ キャタピラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要領の分かりにくい子供には、曲がる方向の手を挙げさせたり、一緒に教師が歩いたりする。 ・ 指示は、できるだけ急に出さずに、「今度は右（左）に曲がります。曲がれと言ってから曲がりなさい。」というように、あらかじめ知らせておく方がよい。 ・ 最初は、両手で各部位に触れたり、たたいたりし、次第に片手で触れるようにしていく。そして、触れた部位を動かしていくようにするとよい。 ・ 慣れてきたら、鏡の前で教師と一緒にすることで、身体知覚の形成を視覚的に促す。 ・ 最初は、右手は右目というように同側的に行い、次第に右手で左目といった交差的な活動へと発展させる。 ・ 子供たちが慣れたら、「ひげじいさん」などのリズムに合わせてやり、興味・関心を持たせるとよい。 ・ マラカスや鈴などのリズム楽器を用いて、簡単な歌に合わせて動作模倣を行う。徐々にテンポを早めていって終わる。 ・ 指示の分かりにくい子供には、部位にシールをはったり、鈴を付けたり、部位を布で巻いたりして知らせる。 ・ 絵カードは、子供たちの身体を型どりしたような実物大のものがよい。 ・ 知覚・運動段階の空間における位置の領域、国語科の「これなあに」「あてっこ遊び」の関連を考慮する。 	<p>・ 鏡</p> <p>・ マラカス</p> <p>・ 鈴</p> <p>・ 絵カード</p>

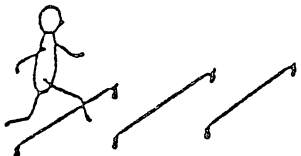
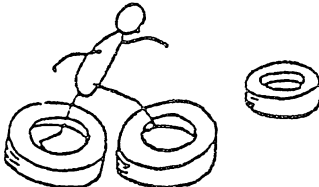
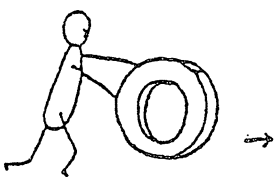
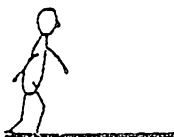
段 階	粗 大 運 動	領 域	運動企画の形成を中心とした活動
目 標	○ 平均台やバランスボウルなどの上で安定したバランス姿勢を保持したり，ジャングルジムやトンネルなどを使って移動運動をしたりすることにより，平衡性や協応性を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備 等
<p><平衡性></p> <p>1 平均台を使って活動する。</p> <p>(1) 平均台の上を横・前・後ろ向きで歩く。</p> <div></div> <p>(2) 平均台の上を四つばいで歩く。</p> <div></div> <p>(3) 障害物を越えたり，くぐったりして歩く。</p> <div></div> <p>(4) 平均台の上でボールの投捕をする。</p> <div></div>		<ul style="list-style-type: none">・ 子供たちが，怖がらずに楽しんで活動できるようにキャラクターの絵をはったり，高さや幅などを調整したりする。・ 一人で平均台の上を歩けない子供の場合は，補助をしながら歩かせるようにする。・ 幅の広い平均台や高さの低い平均台から取り組ませるようにする。・ 平均台の上での四つばい姿勢が困難な子供は，低くて大きな台などを利用させる。・ 慣れてきた子供には，傾斜を加えた平均台などを使用させる。・ 障害物は徐々に大きくしていくが，安全面には十分に留意する。・ トンネルの中が暗くならないようにトンネルはビニールをはった物を使用して安心感を持たせる。・ 教師がボールを投げる際は，まず，胸のあたりを中心にする。そして，徐々に，投げる位置を身体の左右に広げるようにする。しかし，頭の上はあまり高すぎると平均台の上から落ちる危険があるので注意する。	<ul style="list-style-type: none">・ 平均台・ お手玉・ 箱・ ビニールトンネル・ ボール

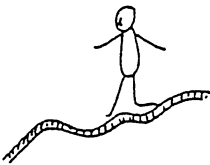
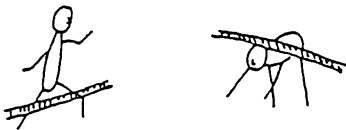


主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>(5) 物を持って歩く。</p>  <p>2 ジャンピング台を使って活動する。</p> <p>(1) 両足で跳ぶ。</p>  <p>(2) ジャンピング台を跳び移る。</p>  <p>(3) ジャンピング台の上でボールの投捕をする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初はバランスをとることに留意させる。 ・ ジャンピング台での立位姿勢の保持が困難な場合は、まず、三つ折り程度に折りたたんだマットなどを利用するとよい。 ・ 補助されながら、あるいは一人で跳ぶときに、できるだけリズムに合わせて回数を決めて跳ぶようにさせる。 ・ 台から台への移動は、不安定な姿勢になるので、初めは、距離を短くして歩いて移ることから始める。 ・ 跳び移ることに慣れてきたら、ジャンピング台を3～4台準備し、リズムカルに移動できるようにする。 ・ 補助者がボールを投げる際は、まず胸のあたりを中心にする。そして、徐々に、体の左右に投げる位置を広げ、左右の手が体の中心を越えるようにさせる。 ・ ボールの重さや大きさ、材質などをいろいろ変化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボール ・ ジャンピング台 ・ マット ・ ボール (大・小)

主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>3. バランスボウルやバランスボードを使って活動する。</p> <p>(1) 両足で立ちながらバランスをとったり、体をねじったりする。</p>  <p>(2) バランスボウルを裏返しにして、その上で、いろいろな姿勢をとる。</p>  <p>(3) バランスボードを並べて活動する。</p>  <p>(4) ボールの投捕をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ バランスをとりにくい場合は、補助者が手を持ってやるか、または、机等を利用し身体を支持させる。 ・ 補助なしでできる場合は、立位から座位、座位から立位へとボード上での姿勢を変化させたり、手を上下、左右に動かしたりさせる。 ・ 子供と教師がジャンケンゲームなどをして、子供が無意識にバランスを維持できるようにする。 ・ 平らな台や跳び箱（一段）などを利用し、姿勢の変化に慣れさせてからバランスボウルへ移行させるとよい。 ・ 動的な平衡感覚が身に付いている子供には左図のような静的な平衡感覚も与える。 ・ バランスボウルやバランスボードを使った活動を通して、十分できてから行わせる。 ・ 姿勢保持ができるようになったら、ボールの投捕へと発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バランスボウル ・ ボール ・ バランスボウル ・ ボール (大・小)

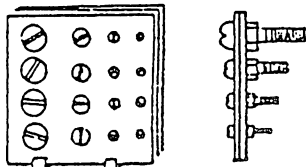

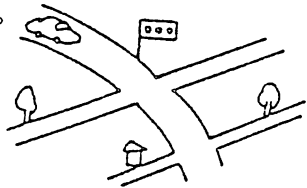
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p><協応性を中心とした活動></p> <p>1 スクーターボードを使って活動する。</p> <p>(1) いろいろな姿勢でスクーターボードに乗り、手でこいで移動したり、回転したりする。</p> <p>・ 腹臥位 ・ 背臥位 ・ 座位</p>  <p>(2) ロープや壁をつたって移動する。</p>  <p>(3) 足でけりながら進む。</p>  <p>(4) スクーターボードを押したり、引いたり、物をのせて運んだりする。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固有覚への刺激を中心とした運動企画の促進をねらいとするため、傾斜のない床などを利用する。 ・ 移動する方向や距離が分かりやすいように、床や壁、ロープなどに目印をつける。 ・ 両手で同時にこぐことから、左右交互にこいでいくようにさせる。 ・ ロープの太さは子どもの握りやすいもの（直径2.5～3.0cmぐらい）を選ぶ。 ・ 壁側にマットを用意し、安全面に配慮する。 ・ 子供が姿勢を保ちにくいときは教師が補助したり、一緒に乗って活動したりする。 ・ 子供が慣れてきたら、棒を使ってこがせたり、リレーをさせたりする。 ・ 子供たちが、互いにぶつからないように、教師がコースを設定したり、スクーターボードにクッションをつけたりして、安全面に配慮する。 ・ 高ばい姿勢で押すのが難しい子などには、取っ手を付けるなどの工夫をする。 ・ 引くときに使うロープは、あまり長すぎないように（約1mくらい）して、コントロールがうまくできる長さに調節する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクーターボード ・ ロープ ・ マット ・ 棒



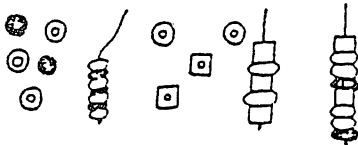
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>2. 滑り台を使って活動する。</p> <p>(1) 階段やスロープを上がったり降りたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前向き ・ 後向き <p>(2) スロープをいろいろな姿勢で滑る。</p>  <p>3 ジャングルジムを使って活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両手両足を協応させて横移動  <p>4 トンネルを使って活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トンネルくぐり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一段ずつ、確実に手でつかみ、しっかりと足をのせて上り下りさせる。 ・ 慣れてきたら、両手・両足を協応させて、リズムカルに上り下りさせるようにする。 ・ 滑る速さを調整するために、滑り台のふちを手で握ったり、足で押さえたりさせる。 ・ 滑り台の途中にビニールでおおったトンネルを置き、座位で滑りながら背臥位へと姿勢を変化させ、目と体幹との協応を図る。 ・ ジャングルジムの側面を利用して、両手・両足を協応させながら、横に移動させるが、足の運びが不安定な場合は、地面に引いた線に沿って移動させる。そして、徐々に高さを加えていくようにする。 ・ カラートンネル、ダンボール、机、ビニールトンネルなどのいろいろなトンネルを準備し、様々な大きさの穴に合わせてくぐり方を工夫させる。 ・ トンネルの壁に、いつもぶつかってしまう場合は、初めにフロアでの四つばい歩行を十分に行わせるようにする。また、短いトンネルや補助者のトンネル（大人が四つばい姿勢になったトンネル）などで遊ばせるようにする。 ・ 慣れてきたら、傾斜面に置いたトンネルやL字トンネルなどへ発展させるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 滑り台 ・ ビニールトンネル ・ スロープ ・ ジャングルジム ・ ライン引き ・ 平均台 ・ カラートンネル ・ ダンボール ・ 机 ・ 平均台 ・ マット ・ ビニールトンネル

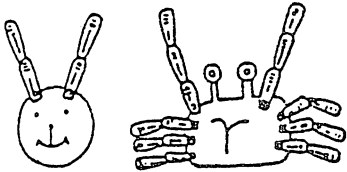

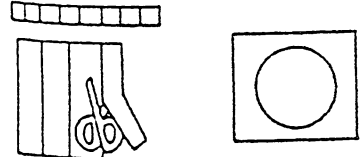
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>5 ミニハードルを使って活動する。</p> <p>(1) ミニハードルをまたいで歩く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミニハードル (小) ・ ミニハードル (大) ・ 組み合わせたもの  <p>(2) ミニハードルを跳び越す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片足踏み切り ・ 両足踏み切り <p>6 タイヤを使って活動する。</p> <p>(1) タイヤの踏み渡りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直線に並べたタイヤ ・ ジグザグに置いたタイヤ  <p>(2) タイヤを転がす。</p>  <p>7 ロープを使って活動する。</p> <p>(1) ロープに沿って歩く。</p>  <p>(直線)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちに不安感を持たせないように、最初は低く、1～2個から始め徐々に高くしたり、個数を増やしたりする。 ・ 慣れてきたら、ミニハードルの間隔を狭くしたり、合図に合わせて、リズムカルに歩くようにさせたり、手にこん棒を持たせたりする。 ・ ミニハードルは、足にかけても安全なように、倒れやすいものを作る。 ・ タイヤの踏み渡りが不安定な子供には、フープなどを利用し、中心部の穴から穴へとまたいで歩くことから始める。 ・ タイヤに着色することで、タイヤを意識させるなどの工夫をし、目と足の協応動作の形成を図る。 ・ スムーズに行く子供は、リズムに合った渡り方ができるようにさせる。 ・ タイヤは、子供の体に合った大きさのものを選び、自由に転がすことからさせる。慣れてきたら、直線やジグザグのコースを設定したりタイヤを大きくしたりする。 ・ 子供たちが、転ばないように、ホースなどの柔らかいロープ状のものから使うとよい。 ・ 最初は、両足の間にロープを挟むようにまたいで歩き、徐々にロープの上を歩くようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニハードル (大, 小) ・ こん棒 ・ 古タイヤ ・ フープ ・ ロープ ・ ホース



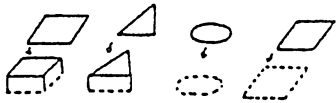
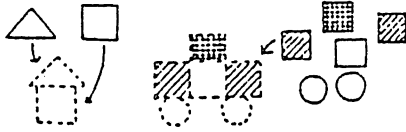
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<div data-bbox="244 321 573 486">  <p>(曲線)</p> </div> <p>(2) ロープをまたぎ越したり、くぐったりする。</p> <div data-bbox="230 705 573 834">  </div> <p>8 はしご (ラダー) を使って活動する。</p> <p>(1) 床に置いたはしごのさんの間を渡る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四つばい ・ 高ばい ・ 立位 <div data-bbox="318 1117 614 1219">  </div> <p>(2) 傾斜したはしごを上り下りする。</p> <div data-bbox="282 1368 515 1524">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロープの特性を生かし、直線からいろいろな曲線へと発展させ、できるだけ、子どもたちにロープの道作りをさせるようにすることで、興味を持たせる。 ・ 素足で歩かせるようにして、ロープを意識させ、目と足の協応を促すようにする。 ・ ロープに目印になるもの (布切れや鈴など) をつけて、子どもたちのロープへの意識を促すようにする。 ・ 子どもたちが受け入れやすいように、地面にラインをひいたものからさせる。 ・ 四つばいや高ばいなど、ネコやウマなどの面を与えて楽しく活動できるようにさせる。 ・ 跳び箱などを使って傾斜をつくるが傾きは徐々に与えていくようにする。 ・ はしごのさんに、すべり止めなどを施したり、下にマットを敷いたりして安全面に配慮する。 ・ 自分の手や足の意識が大切であり、身体知覚につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はしご (ラダー) ・ 動物の面 ・ 跳び箱

知覚・運動段階

段階		知 覚 ・ 運 動	領 域	目と手の協応を中心とした活動
目 標	○ 輪郭をなぞって色塗りをしたり、ビーズ通しをしたり、はさみで切ったりする活動を通して、目と手の協応力や集中力を養う。			
	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備 等
1 手、指遊びをする。 例 ・ 「げんこつ山のたぬきさん」 ・ 「おはなしゆびさん」 ・ 「こびとさん」 など 2 ボルト・ナット通しをする。 		<ul style="list-style-type: none">・ 教師も歌を歌いながら大きな動作をし、リズムに合わせて、手、指の協応動作をするおもしろさを味わわせる。・ 色、形、大きさの違うボルト・ナットを準備し、弁別を促しながら通させる。・ ボルト・ナットは、緩まないようにしっかりと固定させる。	<ul style="list-style-type: none">・ ボルト・ ナット	
3 指なぞりをする。 (1) はめ込み板の図形の周囲をなぞる。 		<ul style="list-style-type: none">・ 指なぞりは、形の感覚や視覚と運動の協応をよくするとされている。・ はめ込み板のくぼんだ所にしっかり指を当ててなぞらせる。それに慣れたら、紙に書いた図形の周囲をなぞらせる。	<ul style="list-style-type: none">・ はめ込み板	
(2) 用紙に書かれた道路や線路の上を、ミニカーや汽車のおもちゃ等を押して走らせる。 		<ul style="list-style-type: none">・ 道路や線路には、信号機や遮断機を書いて、楽しみながら走らせることができるようにする。しかし、それらが刺激となって集中できない場合には、道路や線路のみにする。・ 道路や線路の幅は個人に応じて変えはみださないで走るようにさせる。	<ul style="list-style-type: none">・ ミニカー・ 汽車のおもちゃ・ 道路や線路を書いた紙	
(3) クレヨンや鉛筆で、図形や事物の周囲をなぞる。		<ul style="list-style-type: none">・ 指なぞりや線路なぞりに慣れたら、クレヨンや鉛筆で、線をよく見てなぞるようにさせる。	<ul style="list-style-type: none">・ クレヨン・ 鉛筆	

主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>4 輪郭なぞりと色塗りをする。</p> <p>(1) 簡単な輪郭のものをなぞって色を塗る。</p>  <p>(2) 複雑な輪郭のものをなぞって色を塗る。</p>  <p>5 ビーズ通しをする。</p> <p>(1) 大きなビーズを、ひもに通す。</p> <p>(2) 決められた色、形のビーズを、ひもに通す。</p>  <p>(3) 小さなビーズを、糸に通す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○, △, □などの基本形の輪郭をなぞらせる。 輪郭は、点線で表し、巧み性の乏しい子供には、幅が広く、間隔の狭い点線のものを、太字用のペンでなぞらせ色塗りさせる。 子供たちの好きな動物や乗り物などの絵を準備してなぞらせる。 輪郭線からはみ出さないように注意して、丁寧に色塗りさせる。 色塗りに慣れたら、塗る色の数を増やし、部所によって塗り分けるなど、色塗りの楽しさを味わわせながら、きれいに仕上げていくように促していく。 初めは、針金の入った硬いひもに、木製のビーズを通させ、慣れてきたら柔らかい素材のものを使用させる。 形は同じで色の違うビーズを交互に通す、色は同じで形の違うビーズを交互に通す、色と形を組み合わせ通すなど、巧み性ととも、色、形の弁別や系列の記憶も促していく。 ビーズを通して首飾りや腕飾りにするなどの目標をもたせ、意欲的に活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペン (太字用) (細字用) クレヨン いろいろなひも いろいろなビーズ (硬さ、色、形、大きさの違うもの) 糸

主な学習活動・内容	留意点	準備等
<p>6 はさみで、紙を切る。</p> <p>(1) 洗濯ばさみ留めをする。</p>  <p>(2) 自由に紙をちぎる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ちり紙 ・ 新聞紙 ・ 包装紙 ・ 色紙 など <p>(3) 粘土をはさみで切る。</p>  <p>(4) 自由に紙を切る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色紙 ・ 画用紙 ・ 包装紙 ・ ざら紙 ・ 厚紙 <p>(5) 線に沿って切る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接はさみを操作する活動をする前に、指先の力を強くしたり、手指の円滑な操作を促したりするために、洗濯ばさみ留めをする。 ・ 動物の顔をかいた紙に洗濯ばさみを留めると耳や鼻になるようにし、楽しく活動できるようにする。 ・ いろいろな材質、色、模様の紙を多く準備し、思い思いにちぎらせる。 ・ 力強く一気にちぎらせたり、少しずつゆっくりちぎらせたりし、手指の力の入れ具合を加減させる。 ・ はさみで一回切りできるぐらいの太さにし、ひも状にした粘土を切る活動は、紙を切る活動よりも容易であり、はさみを操作する活動の導入として有効である。 ・ いろいろな紙を自由に切らせることにより、切り方や加減を工夫させる。 ・ はさみの先は人のいる方に向けない、刃の近くは触れないようにするなど、安全面にも留意させる。 ・ 一回切りや直線に沿って切ることから始め、曲線に沿って切る、○、△、□などの簡単な形を切り抜くことへと徐々に難易度を増やすようにする。 ・ 開閉の使い方が不十分であったり、刃の間に紙がはさまったりする子供には、訓練用のはさみも使用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洗濯ばさみ ・ 画用紙 ・ ダンボール紙 ・ いろいろな紙 ・ 粘土 ・ はさみ ・ 皿 ・ いろいろな紙 ・ 画用紙 ・ 訓練用のはさみ

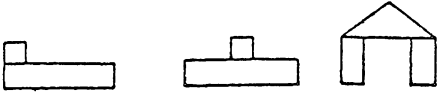

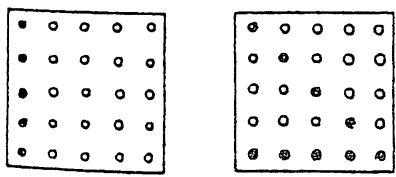
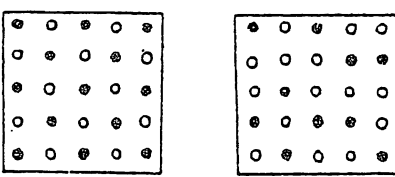
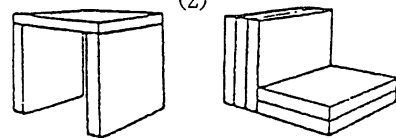
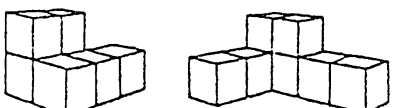
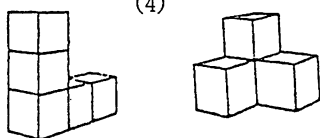
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>(6) 動物や乗り物などの形を切り抜く。</p>  <p>7 紙をはる。</p> <p>(1) 紙切れや布切れなどを、大きな紙の上に自由にはる。</p>  <p>(2) 輪郭の上にそれと同じ形に切り抜いた紙をはる。</p>  <p>(3) 模様の模倣をしてはる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちの好きな動物や乗り物などの絵を準備する。絵は、簡単なものから複雑なものまで準備し、個人差に応じて選べるようにする。 ・ 切り抜く際は、輪郭線をよく見て、ゆっくりと正確に切るように注意する。 ・ 大きな紙を広げ、好きなところに自由にはれるように広い場所で行う。 ・ のりは適量を、切れ端の隅々まで伸ばすように注意する。 ・ 初めは、輪郭の上に三次元のもを置いて、形を認識させ、次に厚紙の切り抜きを使って同様な活動をさせる。 ・ ○、△、□などの形を切り抜ける子供には、6で自分で切ったものををはらせる。 ・ ○、△、□などの形を2、3枚組み合わせた簡単な模様から始め、次第に色や形を組み合わせた複雑な模様にしていく。 ・ 色や形をよく見て、同じものをはるように注意する。 ・ 7まで通過したら、「学習ブック初級」の「目と手の協応」の項に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物や乗り物などの絵 ・ 紙切れ ・ 布切れ ・ 大きな紙 ・ のり ・ 手ふき ・ 輪郭をかいた紙 ・ 切り抜き ・ 模様の見本 ・ フロスティック視知覚学習ブック

段 階	知 覚 ・ 運 動	領 域	図形と素地の知覚を中心とした活動
目 標	○ いろいろな具体物を、感触、大きさ、形、色などの特定の刺激に集中して弁別したり、分類したりする活動を通して、図形と素地の知覚を促す。		
	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
	<p>1 具体物を使って弁別活動をする。</p> <p>(1) 感触の違いに着目して弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビロードの中に入っている毛布 ・ ダンボール紙の中に入っている板 ・ 用紙の中に入っている画用紙 など <p>(2) 大きさの違いに着目して弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さい積み木の中に一個入っている大きい積み木 ・ 大きいボールの中に一個入っている小さいボール など <p>(3) 形のの違いに着目して弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丸い色板の中に一個入っている四角い色板 ・ 犬のカードの中に一枚入っているうさぎのカード <p>(4) 色の違いに着目して弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤いおはじきの中に一個入っている黄色いおはじき ・ 白い紙の中に一枚入っているクリーム色の紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物は、扱いやすい大きさのものを準備し、感触の明確に違うものから少し違うものを探し出すようにしていく。 ・ 大、小の積み木を一つずつ提示し、大きな積み木を取ることを確認させた後、小さな積み木の数多くする。 ・ 形、色の同一のものを準備し、大きさの違いに着目して探せるようにする。 ・ 丸い色板と四角い色板を一つずつ提示して、四角い色板を取ることを確認させた後、丸い色板の数多くしていく。 ・ 大きさ、色の同一のものを準備し、形のの違いに着目して探せるようにする。 ・ 大きさ、形が同一で、色の違うおはじきを準備する。 ・ おはじきは、横一列に等間隔に並べたり、密集して並べたり、箱に入れたりして、探し出しゲームを行い、どんな場合からでも弁別できるようにする。 ・ 弁別する色は、明確に違う色から、少し違う色へと移行させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビロード ・ 毛布 ・ ダンボール紙 ・ 板 など ・ 大、小の積み木 ・ 大、小のボール など ・ 色板 丸 四角 ・ 絵カード など ・ 色の違うおはじき ・ 色紙 など

主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>2 具体物を使って分類活動を行う。</p> <p>(1) 感触の違いに着目して分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色紙と色板 粘土のだんごと小石 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(2) 大きさの違いに着目して分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大, 小の積み木 大, 小の色板 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(3) 形の違いに着目して分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ボールと立方体の積み木 ○, △, □の色板 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(4) 色の違いに着目して分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> おはじき 色板 <p style="text-align: right;">など</p> <p>(5) 感触, 大きさ, 形, 色などが, 総合されたもので分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤い粘土のだんごとそうでないもの 木製で大きく, 赤い立方体の積み木とそうでないもの <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 形, 大きさ, 色の同一のものを準備し, 感触の違いに着目して分類させる。 見たり触ったりして分類することに慣れたら, 不透明の柔らかい袋に入れて, 上から触ったり, 中に手を入れて触ったりして分類させる。 形, 色の同一のものを準備し, 大きさの違いに着目できるようにする。 極端に大きさの違うものの分類から始め, 次第に, その差を小さくしていく。 ボールと積み木を一つずつ提示し, 名称を言わせたり, 転がしてみたりして異なることを確認し, 分類させる。 二種類の分類に慣れたら, 他に形の違うものを準備し, 分類数を増やしていく。 初めは, 大きさ, 形が同一で, 色の違うもので分類を行い, 慣れたら少しずつ大きさ, 形, 感触の違うものを準備し, 色の違いにのみに着目して分類する活動も行っていく。 (1) から(4) を十分行った後, いろいろな変数の含まれたものを使って分類活動を行わせる。 2まで通過したら, 「学習ブック初級」の「図形と素地」の項に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> 色紙 色板 粘土のだんご 小石 <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> 大, 小の積み木 大, 小の色板 <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> ボール いろいろな形の積み木 <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> おはじき 色板 <p style="text-align: right;">など</p> <ul style="list-style-type: none"> フロスティック視知覚学習ブック

段 階		知 覚 ・ 運 動	領 域	知覚の恒常性を中心とした活動
目 標	○ いろいろな図形を扱うなかで、それらの名称を知ったり、大きさ、形、色ごとに分類したりする活動を通して、知覚の恒常性を養う。			
	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等	
	<p>1 三次元の事物の視覚像を二次元の平面図に置き換える（この逆も行う）。</p> <p>(1) 身の回りの事物を写真や絵、図に置き換える。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 時計(実物)→写真→絵→図(円)・ 丸、三角、四角の積み木→図 <p>(2) 絵や図から三次元の事物を探す。</p> <p>2 大きさ、形、色による分類をする。</p> <p>(1) 大きさによる分類をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 二つの事物で大小を分類・ 三つの事物で大中小を分類・ 四つあるいは五つの事物を小さいものから大きい順（この逆も行う） <p>(2) 形による分類をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 同じ形のものの発見・ 同じ形のもの同士の集合づくり <p>(3) 色による分類をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 同じ色のもの同士の集合づくり <p>3 いろいろな図形や立体を扱う。</p> <p>(1) 図形を自由に扱い特徴や名称を知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 円 ・ 正方形 ・ 三角形・ 十字形・ 星型 ・ 長方形 ・ 半円・ だ円形 <p>(2) 似たような図形の相違点に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 円とだ円 ・ 正方形と長方形・ 正方形とひし形 など <p>(3) 立体を自由に扱い特徴や名称を知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 球 ・ 立方体 ・ 円柱・ 円錐 ・ 三角柱 ・ 三角錐 など	<ul style="list-style-type: none">・ 子供の中には、事物は見慣れているのにその事物の絵は認知できない者がいる。そこで、これらを結び付けられるようにする。・ 実物と絵カードのマッチング等の活動を繰り返して行わせる。・ 子供に大きさの極端に違う事物を2個見せ、大きい方を指差させる。できるようになったら、2個の事物の大きさの差を次第に小さくしていく。・ 子供たちに幾何学図形を示し、教室内のものでそれと同じ形のものを見つけてさせる。(例) 長方形—机、本・ 算数・数学の指導計画の「なかまあつめ」の題材も参考にする。・ 知覚の恒常性を養う活動は、大きさ、形、色の識別に役立つとともに、二次元の平面上に描かれた三次元の事物や三次元の中の二次元平面の認知に役立つ。・ 名称を学習する際には、一度に1～2種類しか扱わないようにする。また、「丸」「四角」等の言い方も認める。・ 各図形や立体は子供たちがあつた一つの方向からだけ認知することを学習しないように、いろいろな方向から提示する。・ 3まで通過したら「学習ブック初級」の「知覚の恒常性」の項に進む。	<ul style="list-style-type: none">・ 時計・ ボール・ 本 等・ 絵カード・ 絵カード・ 図形カード・ 色カード・ 型はめ板・ 型板・ 正方形・ 三角形・ 円 等・ 立体・ 球 等・ フロスティッグ視知覚学習ブック	

段 階	知 覚 ・ 運 動	領 域	空間位置・関係の知覚を中心とした活動
目 標	○ 自分の身体を事物との関係において動かしたり、具体物同士でいろいろな形を作ったりすることを通して、空間における位置・関係の知覚の素地を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備 等
<p>1 自分の身体を動かして、身体と事物との相対的な位置関係を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いすの上にのぼる」 ・ 「机の下に入る」 ・ 「机の前(後)に立つ」 ・ 「輪の中に入る」 ・ 「輪の外に(へ)出る」 など <p>2 自分の左側にある事物と右側にある事物を識別する。</p> <p>(1) 部屋の中や運動場の事物について、右、左を判断する。</p> <p>(2) 指示された通りの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「前へ進みなさい。右へ曲がりなさい。前へ進みなさい。左へ曲がりなさい。」 ・ 「自分の机の左(右)側に立ちなさい。」 <p>3 事物相互の位置関係を識別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つのおもちゃ <div data-bbox="251 1158 570 1275" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「右(左)側は何ですか。」 ・ 「車(人形)はどちら側ですか。」 <p>4 絵カードや言葉の指示に従い、図形を回転したり並べ変えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人形 (例) <div data-bbox="211 1471 580 1569" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正方形、三角形 (例) <div data-bbox="211 1628 618 1687" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="211 1707 614 1765" data-label="Image"> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・ これらの活動は、最初、教師が動作と言葉を連合させて模範をみせる。子供たちが慣れてきたらゲーム形式でやらせてもよい。 ・ 言葉と動作と位置が連合するように、動作を行っているときにやっている子供たちに言わせるようにする。 ・ 識別する事物の方にある腕での事物を指差させ、右、左を判断させる。 ・ プレイルームの床や運動場に1m幅の道路(十字路、T字路を含む)を書いておき、歩かせる。 ・ 最初は、指示に即して左右の手を挙げさせてからそれぞれの活動をさせるようにする。 ・ 自分の身体の左右を十分に識別できるようになってからこの活動に入るようにする。 ・ 二つの事物の間に子供を立たせ、指示された事物に近い方の手でその事物を取らせ、右、左を判断させたり、その名称を言わせたりする。 ・ 厚紙で作った同一の型の人形や正方形、三角形等を任意の位置や向きに置いて子供に示し、教師が提示する絵カードや指示した言葉どおりに回転させたり並べ変えさせたりする。 ・ 水平、垂直、逆さ、斜めなど、いろいろな方向に回転させる。 ・ 提示する絵カードや言葉は、次第に複雑にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いす ・ 机 ・ 輪 等 ・ おもちゃ ・ 自動車 ・ 人形等 ・ 積み木(色違い) ・ 絵カード ・ 図形 ・ 人形 ・ 正方形 ・ 長方形 ・ ひし形 ・ 正三角形 ・ 形 ・ 直角三角形 ・ 外

主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備 等
<p>5 絵カードやことばの指示に従い、積み木を並べる。 (例)</p> <p>ア イ ウ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例ア 「長い積み木を横に置きなさい。そして、小さい積み木を左上に乗せなさい。」 ・ 5まで通過したら、「学習ブック初級」の「空間における位置」の項に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積み木 ・ フロスティック視知覚学習ブック
<p>6. 色のついた積み木で手本や指示どおりに組み立て、相互の位置関係を知る。</p> <p>(1) 自由に積み木で遊ぶ。</p> <p>(2) 指示どおりに組み立てる。</p> <p>(例) ・ 「赤い積み木の上に青い積み木を置きなさい。」</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 「赤い積み木はどこですか。」 ・ 「青い積み木の下にあります。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由に遊ばせる中で、上下、前後、左右等の位置関係を表す言葉掛けを意識的に行う。 ・ この活動のほかにも「前・後」「左右」等の関係も押さえさせる。 ・ 慣れてきたら積み木の数を増やしたり、位置関係を言葉で言わせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色付き積み木
<p>7 玉さし盤を使って手本どおりの模様を作る。 (例)</p> <p>(1) (2)</p> 	<p>(3) (4)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玉さし盤
<p>8 積み木を使って手本どおりの模様を作る。</p> <p>(1) (2)</p>  <p>(5) (6)</p> 	<p>(3) (4)</p>  <p>8まで通過したら、「学習ブック中級」の「空間関係」の項に進む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積み木 ・ 色付き積み木 ・ フロスティック視知覚学習ブック

